

本文

Q-1. (3) 「先週」や「去年の夏」などで登場する pasado と último はどう使い分けたら良いのですか？ 使い方に決まりはあるのですか？

A-1. pasado は現在から考えて「過ぎた」という意味で、たとえば la semana pasada は「(今週から見ての)先週」という意味になります。último は一連のものうち最後という意味で、las últimas vacaciones de verano は夏休みが毎年ある中で現在に到らないまでの最後の夏休み、で「この前の夏休み」となります。la última semana とすると、たとえば la última semana de julio のように、「7月の最後の週」となります(この用法は pasado にはありません)。これも、「現在に至らないまでの、最後の週」つまり「先週」という意味に使うこともできます(この場合は la semana pasada と同じ意味になります)。

Q-2. (3) vacaciones が複数形になるのはなぜですか？

A-2. 確かに夏休みは 1 回なので単数でよさそうですが、多くの場合複数形で使います。以前は単数で使われていて、また vacanza などという言葉(「バカンス」これも単数)もありました。最初の複数形(vacaciones)が出現したのは比較的最近(1930年代)で、「年間の(複数の)有給休暇」という意味で使われるようになったようです。夏の休暇ならば1回のはずですが、この複数形の表現が慣用になって広がったようです。

Q-3. (3) vacaciones de verano と言いますが英語では summer vacation と言い vacation of summer とはあまり言いませんが de を使わないような言い方はありますか？

A-3. スペイン語では基本的に名詞+名詞の構造はとりません。そこで「夏休み」(verano vacación)というのではなく、「夏の休み」(vacación de verano)という言い方になります。

Q-4. (4) 何故 ¡Estupendamente! という形になるのですか？ ~mente という形は英語で ~ly に相当すると教えてもらいました。何故 ¡Estupenda! にならないのですか？(英語で考えると Wonderful!ではなく、Wonderfully!となり、おかしい気がするのですが...)

A-4. その前の疑問文は ¿Cómo has pasado...?ということなので、夏休みを過ごした様子を疑問副詞で聞いています。そこで、Estupendamente という副詞で答えています。

Q-5. (7). a ir a の部分はどうなっているのですか？

A-5. 「invitar a+不定詞」で「...することに誘う」という意味になります。ここでは「グラナダに行くことに誘う」という意味です。

Q-6. (7) Tomoko: No, me invitaron unos amigos a ir a Granada.

スペイン語部会のHPの教科書解説で、これに対する日本語訳が「うん、友達が何人かでグラナダに行くのに誘ってくれたの。」となっていました。正しくは「いいえ、友達が何人かでグラナダに行くのに誘ってくれたの。」ではないのでしょうか？

A-6. おっしゃる通り、たしかに「僕ははっきり君がここサラマンカで休暇を過ごしたと思っていたよ」という風に Juan が言っているわけですから、Tomoko としては、そうではないんだ、という意志を《No》で表現したとは思いますが、もう Tomoko はすでにアンダルシアに行ったことを彼に伝えているのですし、これをそのまま《いいえ》と訳してしまうと、ちょっと語気が強くなってしまって、なにか Tomoko の性格がすこし意地悪く響く感じもします。訳者はそこを考慮して、すこし曖昧な《うん》という軽い相づちでもって、ここの辺りを表現しようと苦労されたのだと思います。いずれにしましても、直訳せよということでしたら、ここは《いいえ》だと思います。

Q-7. (8) ¿Qué te ha parecido?は、¿Cómo te ha parecido?とならないのですか？英語でも How を使うところなので、Cómoの方がよいように見えますが。

A-7. Qué がよく使われます。¿Cómo te ha parecido?でもかまいません。

Q-8. (10) どうして una となるのですか？ son una という形が不思議な感じがします。

A-8. 主語は la arquitectura と los jardines です。動詞は主語と一致します。ここでは主語が複数、補語が単数です。主語をまとめてそれが una maravilla である、という意味になります（主語がない文では ser 動詞が補語と一致することもあります。たとえば Son las dos 「2 時です」）。

Q-9. (10) どうして主語が複数なのに補語は単数になるのですか？ 形容詞さえ数を一致させるのに何だか不思議な感じがします。

A-9. 主語と補語の性と数の一致は形容詞の問題です。たとえば、Estas alumnas son japonesas. 「この女生徒たちは日本人です」。補語が名詞のときは、たとえば、Éstos son mis libros. 「これらは私の本です」のように、その同じ性と数の名詞が使われる場合ももちろんありますが、本文(10)のように、補語がまったく別の名詞であることもあります。補語が名詞のときは、その補語が指している物の性と数が問題なのであって、主語の性と数との一致によるものではありません。形容詞の性と数の変化は（単なる一致によるので）意味を変えませんが、名詞の変化は（男性なら男性という意味、複数ならば複数という意味があるので）意味を変えます。性と数の一致ということは英語にはないので、はじめは少し困難に思われるかも知れませんが、だんだん慣れていくと思います。

Q-10. (10) の「補語は単数」とありましたが、どれが補語ですか？

A-10. una maravilla です。

Q-11. (12) claveles はどうして冠詞が不要なのですか？

A-11. 単数ならば un clavel となり，不定冠詞をつけますが，複数なので冠詞がありません。不定冠詞の複数形はありません。unos, unas は「いくつかの」という意味の不定形容詞です（教科書の p.14）。

Q-12. (17) ser はどうして不定詞になるのですか？

A-12. 前置詞(この場合は por)の後では名詞を使わなくてはならないので，動詞は不定詞形になります。不定詞は「...すること」という意味で動詞の名詞的用法です。

Q-13. (18) どうして a amar と a があるのですか？

A-13. comenzar a + 不定詞が「...し始める」という意味になる動詞句を形成します。

Q-14. (18) y は次の語が i で始めると，音がかぶってしまうので e に変わるのに，a は a amar のようになってても変化しないのが不思議でした。

A-14. たしかに a amar という連続はほとんど amar と聞こえるくらい不鮮明になります。手紙やメールなどではよく voy a hacer...と書くとき，voy hacer としてしまう人がいますが，これもほとんど意識されないからだと思います。ところが，voy a comer を voy comer と書く人はいないのです。このようにスペイン語は同じ母音が連続するとそれが融合する傾向があります。それでも，明確に区別するためにわざわざ別の形を作る，ということはしませんでした。

ところで，このことに関連して，agua というようなアクセントのある a で始まる女性名詞には定冠詞が el がつくことを指摘しておきましょう。これは la が古いスペイン語では ela という形であったためです。そこで ela の a が次の a と融合して，ela + agua は el agua ，一方 ela casa ならば la casa となりました。このように，言語の変化は意識されずに単に音声的な理由で変化するものが多くあります。español e inglés の場合も，次の i と区別するために y が e に変化した，というよりも，もともとラテン語では et だったので，それが i (> y) に弱化しなかった，と考えられます。弱化しなかった理由は次の i があるためです。このような現象を「異化作用」disimilación と言います。

Q-15. (19) 否定語や cualquier の後は必ず単数になるのですか？

A-15. 確かに単数が多いのですが，まれに複数形になることもあります。インターネットで No somos ningunos perros. 「私たちは犬なんかではない」，Puedes ir a cualesquier sitios. 「君はどこにでも行ける」。cualquier の複数例外的に cualesquier となります。

Q-16. (22) の訳は「...彼女の目はあの月のそばで輝く二つの星になってしまったからです。」となりますが、ここで「なってしまった」となるのなら、どうして son になるのですか？英語で言うと became になる気がするのですが...

A-16. たしかに、「二つの星になっているからです」としてもよいです。ただその前の文が consiguió という過去形で、この文が現在形になっているということで、「なってしまった」という変化の結果と見ることができます。

Q-17. (22) junto a la Luna と a が入るのは何故ですか？

A-17. junto は副詞で、junto a という形で、「...のそばに(で)」の意味になります。junto は「接合する」という意味があるので、「...に接する」という意味の前置詞 a とつながりません。

Q-18. (22) junto が副詞か形容詞かで s がついたり、つかなかったりする事を以前教えて頂きましたが、どうやって見分けたら良いのですか？いまいち見分け方が分からないので、教えて頂けると嬉しいのですが...

A-18. 形容詞の junto は、性と数が変化します。junto, juntos, junta, juntas. Estamos juntos. 「私たちは一緒にいます」では、形容詞なので主語の性と数に合わせて、男性複数形になっています。一方、副詞の junto は変化しません。たとえば、Junto con el regalo, enviamos una carta. 「私たちは贈り物と一緒に手紙を送った」の junto は副詞なので変化しません。

Q-19. (22) 形容詞と副詞で変化するかどうかが変わる、というのは分かるのですが、その文で使われている junto が形容詞なのか副詞なのか、はどうやって判別したら良いのですか？文章の意味を考えてみてもいまいち良く分からないのですが、何か見分ける目安のようなものはありますか？

A-19. 形容詞の用法は名詞を直接修飾するか(cielo azul), ser や estar など主語を叙述するか(Estoy cansado), または、主語を修飾して主語と性と数と合わせます。Cantamos juntos. 「私たちは一緒に歌います」。この場合は juntos は nosotros という主語に一致して、主語を修飾しています。一方、Junto con el regalo, enviamos una carta. 「私たちは贈り物と一緒に手紙を送った」の junto は主語(nosotros)を叙述(説明)していません。むしろ動詞 enviamos にかかります。英語ならば形容詞も副詞も変化しないので、両者を区別しなくてもどうにかかりますが、スペイン語は形容詞ならばそれがかかる名詞に一致させなければならないので、はっきりと区別しなければなりません。

Q-20. これは本当にグラナダにある話なのですか？

A-20. この本文はスペイン人の先生に作っていただきました。グラナダの昔話を簡単なス

ペイン語に直してあります。「月」はイスラムの物語によく登場します。

文法

1. 現在完了

Q-1. 現在完了と過去形の区別がつきません。

A-1. 現在完了では過去にあったことが現在の状態にかかわっていることを示し、時制としては現在になります。基本的に「...してある」という意味です。一方、過去形は「過去に...ということがあった」という意味で、時制は過去になります。

Q-2. たとえば、「私はスペインに1年間住んでいた(今は東京に住んでいる)」という文を考えると、この文は線過去で表現することが可能であり、また「現在から見た完了」にあたるので現在完了でも表現することもできると思うのですが、どちらが正しいのでしょうか？

A-2. 時制のとらえ方によって変わります。過去にそういうことがあった、という意味で使うならば線過去(vivía)、スペインで暮らしたことを今完了したということ伝えてたいときは、現在完了になります(he vivido)。また、過去に終わってしまった事実として言いたいときは点過去も可能です(Viví en España durante un año.)。日本語では同じような言い方になりますが、スペイン語では時制のとらえ方で異なる表現になります。

Q-3. 英語では完了形を用いるときは過去を示す yesterday などは使えませんが、スペイン語ではどうなのですか？

A-3. スペイン語でもやはり、ayer「昨日」(=yesterday)などはっきりと過去を示す副詞は使えません。

Q-4. 完了形の haber + PP が英語の have + PP と似ている。大航海時代とかかわりがあるのだろうか？

A-4. 大航海時代とは関係がありません。英語の have + PP ができた由来はスペイン語の haber + PP と形式的にも時代的にも平行しています。I have written the book は、古英語の I have the book written「私は本を書いた状態で持っている」という形に由来します。スペイン語も中世スペイン語では haber に「持つ」という意味がありました。しかし、英語の have とスペイン語の haber は形がよく似ているものの、同じ起源に遡るかどうかはよくわかっていません。

Q-5. 現代英語では現在完了を「経験」の意味ではあまりとらないというが、スペイン語ではどうなのですか？

A-5. 一番多い用法は「完了」、次に「経験」、そして「継続」は少ないようです。

Q-6. 過去分詞の不規則変化動詞は、教科書 p.50 にあるもの以外はないのですか？

A-6. 教科書に挙げてある不規則の過去分詞が主なものですが、あれが全部ではありません。たとえば他に、imprimir（印刷する）→impreso, satisfacer（満足させる）→satisfecho などの不規則があります。

また、教科書に挙がっている動詞をもとにした合成語も、同様の過去分詞を持ちます。encubrir（隠す）→encubierto, componer（作成する）→compuesto, prever（予見する）→previsto などがその例です。ただし、bendecir（祝福する）の過去分詞は bendicho とはならず、規則的な bendecido、ないし bendito となります。

Q-7. 英語では、現在完了：the present perfect 過去完了：the past perfect 過去形：the past form と英語とその訳語が対応しているように感じられますが、スペイン語では現在完了：preterito perfecto 過去完了：preterito pluscuamperfecto 線過去：preterito imperfecto 点過去：preterito indefinido と、すべてに過去：preterito が含まれており、スペイン語と訳語が対応していないように思われます。講義でも、英語の完了形とは違い、スペイン語の完了形は過去のニュアンスなんだと習ったのですが、それでは、現在完了のような訳語は不適當ではないのでしょうか？

A-7-1. 文法用語にまでこだわって質問を出してきたね。すばらしいじゃないか。専門外だが知っていることをお答えしよう。

あなたが調べたとおり、点過去 preterito indefinido, 線過去 preterito imperfecto, 現在完了 preterito perfecto いずれもスペイン語の文法用語では「過去 preterito」なのだ。これは、やはり、いわゆる現在完了は過去を表わす表現だとスペイン語の文法学者が考えてきた証拠だろう。だから、日本語の訳語も preterito indefinido(不定過去)、preterito imperfecto(不完了過去)、preterito perfecto(完了過去)とする場合もある。「現在完了」という訳は、英語から移行してくる学習者を配慮してのことだろうと推測する。この点は言語学者である上田先生のご意見をお聞きするのが一番だろう。

いずれにせよ文法用語は、語や構文のすべての意味と機能を網羅できるものではない。なのに一度定着すると、英語受験業界のような産業が関与するので、そうかんたんには変えられない。スペイン語の場合は日本では「業界」など存在するかしないかという小規模だから、文法用語も因習にとらわれずみなおしていけばよいと思う。私はというと、文法用語に依存しないで教え学ぶのが一番だと考える。だから文法の名前（現在完了）それによる文法的用法分類（経験、継続、完了）を教えるより、使用文脈やアクションの質を解説するようにしている。その意味で「所有格」と言わず「所有形容詞」と呼び、「目的格」

と言わず「目的語の代名詞」と呼ぶ !Dimelo! 方式は、とっても好きだね。「格」ってなにを意味するか知らないで使うのはバカバカしいもの。(石橋)

A-7-2. 「現在完了」は英語では present perfect なのに、スペイン語ではなぜ pretérito perfecto 「完了過去」というのか、という問題について調べました。動詞の時制の名称には文法史上多くの変遷がありました(西川 1988)。それが、ほぼ定着したのはスペイン王立アカデミー (Real Academia Española) の文法書の力が大きかったと言えるでしょう。ここでは pretérito perfecto という用語が使われています。

これは、次のような歴史的な経緯があったためだと思われます。ラテン語では、he dicho のような形はなく、「完了」という単一の動詞形態で過去時制(スペイン語の点過去)も現在完了も表していました(たとえば DIXI 「私は言った」= dije / he dicho)。それが後に、haber + 過去分詞で「完了」の意味を特化して区別するようになったのです。ということで、「現在完了」はラテン語の過去を示す形に(一部)対応するので、伝統的に pretérito perfecto 「完了過去」と呼ぶようになったのだと思われます(cf. Martínez Amador)。

英語と比べると、スペイン語の「現在完了」は次のように、英語の現在完了の他に過去にも対応します(Ramsey and Spaulding)。Mi hermano ha llegado hoy. = My brother has arrived today. He aprendido el español en España. = I learned Spanish in Spain. しかし、形についても機能についても英語の現在完了とよく似ているので、同じ用語(present perfect 「現在完了」)を使って両言語を比較することが多いのです(たとえば、Solé and Solé)。日本でも普通「現在完了」という用語を使うのがふつうです。やはり、その方がわかりやすいためだと思います。また、現在完了で使われる haber の活用形が「現在」の変化形を使うので、完了「過去」というよりも「現在」完了と呼ぶことが好まれたという理由も考えられます。*次を参考にしました。Martínez Amador, 1974. Diccionario gramatical y de dudas del idioma, Barcelona, Editorial Ramón Sopena. 西川喬. 1988. 『スペイン語時制研究史』神戸市外国語大学外国学研究所 Ramsey, Marathón and Robert K. Spaulding, 1956. A Textbook of modern Spanish, New York. Holt, Rinehart and Winston. Real Academia Española, 1931. Gramática de la lengua española, Madrid, Espasa-Calpe. Real Academia Española, 1973. Esbozo de una nueva gramática de la lengua española, Madrid, Espasa-Calpe. Solé, Yolanda and Carlos Solé, 1977. Modern Spanish syntax. A Study in contrast. Lexington, D. C. Heath and Company. (上田)

2. 過去完了

Q-8. 過去完了で haber の点過去ではなく、線過去が使われるのはなぜでしょうか？

A-8. 線過去を用いる過去完了は、過去のある時期までに終わってしまったことを示します。あることが過去の一時期の直前に起こったことを示すときには、次のように、点過去を用いた過去完了形も使われることがあります。Cuando todos hubieron salido de casa, él

comenzó a limpiar la casa. 「皆が外出すると、彼は家の掃除を始めた」しかし、これは少し古いスペイン語の用法で、現代スペイン語ではこの場合でも線過去の過去完了形を使います(Cuando todos habían salido ...)。

3 . 関係詞

Q-9. P.51 の「限定用法」, 「独立用法」とは何ですか？

A-9. 限定用法は、本文(12)のように先行詞を修飾します。独立用法は先行詞がなくて、「...する人」「...する物」という意味になります。

Q-10. 関係副詞の cuando はないんですか？

A-10. 関係副詞の cuando は次のような場合に使われることがあります。

Nunca olvidaré el día cuando nació Pedro. 「私はペドロが生まれた日をけっして忘れないだろう。」しかし、この場合 en que や que を用いる方が普通です。

Q-11. 英語では目的語の関係代名詞の that は省略されるが、スペイン語では省略可能なのだろうか？

A-11. スペイン語の関係詞は厳密で、省略できません。

Q-12. 英語では関係副詞 where は in which に書き換えられるが、スペイン語でも同様だろうか？

A-12. lugar en que vivo 「私が住んでいる場所」のように donde の代わりに en que を使うこともあります。

Q-13. 関係詞と疑問詞は形が似ていますが、関係詞にはアクセント記号はつけないのですか？

A-13. つけません。また読むときも強勢をかけないで次の単語につなげて読みます。

Q-14. 英語なら関係代名詞の which の前に in などが出てくることありますが、スペイン語で que の前に en などが出てくることはありえますか？

A-14. あります。ただし、裸の que の前に前置詞をつけるのは、限定用法にかぎるとか、a, con, de, en はいいが、para とか por とか sin はダメだとか、いろいろ制限があります。

Ésta es la casa en que nació Goya.

el que, ...の前にはどんな前置詞をつけても大丈夫です。限定用法にも説明用法にも使えます。

Ésta es la razón por la que no he podido asistir.

4 . -mente の副詞

Q-15. スペイン語の-mente は英語の-ly と働きが似ているような気がする。

A-15. 英語の-ly の語源は lic で「体」という意味でした。スペイン語の mente は「心」という意味です。それぞれ「...という体で」、「...という心で」という意味から副詞になりました。スペイン語の mente は現代でも「精神」という意味で使われます。これが女性名詞なので、前にくる形容詞が女性形なのです。

5 . 序数詞

Q-16. どうして primero と tercero だけが男性単数名詞の前で変化するのですか？

A-16. uno, alguno, ninguno, bueno, malo など男性単数名詞の前で o が脱落します。これらは脱落しても語尾が n や l で終わるので、安定しています。他にも多くの n や l で終わる単語があります。同様に primer, tercer も r で終わるので安定します。r で終わる語もたくさんあります。ところが segundo, cuarto, quinto...はそれぞれ nd, rt, nt など終わることになって、スペイン語では語末に現れない子音の連続になってしまいます。それで母音をしっかりつけて安定させていたのです。novenno は noven でもよさそうですが、6番以降はラテン語から直接入った言葉なのでほとんど変化しませんでした。それでは女性名詞の前では、なぜ a が脱落しなかったのでしょうか？これは母音 a は口を大きくして発音するためで、そのエネルギーが強かったからです。なお、スペイン語の語末にある子音は d, s, n, r, l, z です。その他の子音はとても稀です。

Q-17. 序数詞の語尾が ro, do, to, no, vo, mo といういろいろあるのですが、何か規則はあるのですか？

A-17. 序数詞はスペイン語の中には規則が見えにくいのですが、ラテン語、さらに遡ってインドヨーロッパ語では語尾は to, mo, o でした。primero と tercero にはスペイン語の形成過程で-ero という語尾がつけました。

Q-18. 序数で 1 番目 ~ 10 番目については教科書に言及されているのですが、11 番目以降はどのように表現されるのでしょうか？

A-18. Dímelo の教科書には序数は 10 までしか載っていません。初心者はとりあえず 10 までの序数を覚えてください、という配慮です。でもそのあとが知りたいという人のために。11 は undécimo, 12 は duodécimo, そのあとは、13 decimotercero, 14 decimocuarto, 15 decimoquinto, 16 decimosexto, 17 decimoséptimo, 18 decimoctavo, 19 decimonoveno とな

り、decimo + 1 の位の序数、となります。18 だけ、decimo の最後の o が脱落します。10 台の数字は一語で書きます。バリエーションのあるものがあり、たとえば 19 は decimonono ということもあります。20 は vigésimo で、21 は vigésimo primero, 22 vigésimo segundo, 23 vigésimo tercero... と vigésimo + 1 の位の序数で 2 語に分けてかきます。30 は trigésimo, 40 は cuadragésimo, 50 は quincuagésimo, 60 は sexagésimo, 70 は septuagésimo, 80 は octogésimo, 90 は nonagésimo でそれぞれ後ろに 1 の位の序数をつけます。100 は centésimo... きりがないので、あとはご自分で辞書で調べてみてください。

その他

Q-1. 少し気の早い話かもしれませんが、夏休み中に教科書を終わらせ、その後は平易な文章を読んでみようと思っています。しかし、本屋に行ってみても文法に関する本はたくさんあれど、長文読解に関する本や一般書、日西のバイリンガル本が見当たりません。こういった本や西字新聞を手に入れる手段は何かありませんか？スペイン語の本がたくさん置いてある本屋をご存じないですか？

A-1-1. 熱心にスペイン語に取り組んでくれている様子、教員のひとりとしてうれしいです。スペイン語書籍の専門店としては、神保町の「イタリア書房」、横浜市にある「リプロ」、宮城県にあってカタログ販売をしている「スペイン書房」などがあります。渋谷にあって便利だったインタースペインという本屋は最近（2007 年 9 月現在）四谷に引っ越してしまいました。

スペインに留学していたときには、朝、キヨスクで新聞を買って、刷り上ったばかりのインクの匂いを嗅ぐと、「ああ、スペインにいるんだ」と実感したものです。日本にいては、決してリアルタイムで読むことのできないものでしたから。しかし今や、新聞はインターネットで読める時代です。スペインの代表的な新聞には、政権への批判が強い点で日本の朝日新聞に似ている El País、保守的といわれる ABC などがありますので、検索してみてください。（竹村）

A-1-2. 上記の回答を拝見した上で書きこんでいます。エル・pais はやはり高級紙だからかなりむずかしいですよ。エル・pais El País とかアーベーサーABC とかは難易度が高く、皆さんには歯が立たない箇所が多いと思います。こういう高級紙の記事ではスペイン語ならではの語彙やレトリックが駆使されているからです。英語でいえば週刊誌『タイム』の記事くらいの難易度だ、といったらいいでしょうか。

スペイン語の新聞記事に接する一番の早道は、Google ニュースだと思います。まず、<http://news.google.co.jp/> にアクセスして下さい。そして画面を一番下までスクロールすると、「Google ニュースの国際版は次の国または地域でご利用できます」とあって、Argentina から Russia, India まで 40 以上の国・地域が並んでいます。その中の、アルゼンチンかチ

りかスペインかメキシコか Estados Unidos(米国のスペイン語話者対象)をクリックすると、その国の立場からする最大関心事に関する記事へのリンク集が日本版と同じフォーマットで表示されます。

どこを読めばいいか、となると、国際面か経済面か科学技術面かなあ。私は中南米屋なので、スペインの新聞の政治面は読んでも何のことだかさっぱりわかりません。案外、自然災害とか国際情勢とかの記事から読み始めた方が言葉の習得のためにはいいかも知れませんね。(高橋)

A-1-3. google.com のニュース早見番、スペイン語バージョンが充実していたのですね。有益な情報、感謝します。私の専門はアンデス、やはり読む新聞もペルーのものです。

伝統的な日刊紙《El Comercio》紙 (<http://www.elcomercio Peru.com.pe/>)

は読みやすいですし、少しスキャンダラスな感じを楽しみたいのであれば、《La República》紙 (<http://www.larepublica.com.pe/>) がお勧めです。

サッカーが好きでスペイン語を選択した、という方々もいらっしゃることでしょう。

スペインのサッカー日刊紙《as》(<http://www.as.com/>)、《MARCA》(<http://www.marca.es/>) は、そんな方々が毎日訪れるべきサイト。写真を見ているだけでうっとり。

スペイン語関係のさまざまな情報は、駒場で非常勤講師としてスペイン語を教えてくださいにいた那須まどり先生(2007年8月からイギリス滞在)のサイトからじつに見事な私たちで発信されています。とりわけ映画がお好きな方は、何をおいても、訪ねてみてください (<http://homepage.mac.com/madori/>) (網野)

A-1-4. 私の方からも情報を付け足します。日本語の注付きの簡単な小説では、私のお勧めは白水社からでている

「ファウスト」マトゥーテ著

「最後の夏」ラフォレ著

です。最初のは猫の話、ラストが衝撃的です。2つめは3人の男の子とお母さんの話。書店で注文すれば手に入ります。白水社のスペイン語教科書のページ

http://www.hakusuisha.co.jp/current/kyoukasho_es.html

の「キーワードでさがす」のところに、上記の書名を入れると情報がでてきます。

Amazon.com などでは出てきません。

文法書に関しては、日本語で書かれたもので一番詳しいのはおそらく

山田善郎監修「中級スペイン文法」白水社

だと思います。これは読んで楽しいものではありませんが、文法的なことで悩んだときに参考になります。

インターネットで読む新聞としては、日本で発行されているスペイン語新聞などはどうでしょうか。おもにラテンアメリカから日本に働きに来ている人たち向けの新聞ですが、日本や世界で起きている事件報道の他に、日本のラテンアメリカ人コミュニティでおこった事件とか、日本文化の紹介、日本での暮らし方 Q&A などが、比較的読みやすいスペイン

語で書かれています。内容が自分の知っていることであれば、辞書を片手になんとか解読できるのではないかと思います。International Press という新聞です。サイトは

<http://www.ipcdigital.com/>

駅のキオスクや本屋などでも買えます。置いてあるキオスクのリストは

http://www.ipcjapan.com/pteditionlist_es.html#kiosk 置いてある本屋のリストは

http://www.ipcjapan.com/pteditionlist_es.html#store

(斎藤)

Q-2. スペイン語の文法を身に付けるために何かワークブック的なもので練習したいのですが、本屋に良いものがありません。なにか良い教材が教科書以外にありますか？

A-2. たぶんあなたがイメージしているワークブックとは違うと思いますが、私は以下の参考書は面白いのではないかと注目しています。『スペ単！—頻度で選んだスペイン語単語集 (練習問題つき)』 ISBN:9784255003719 (4255003718) 朝日出版社 (2006-11-01 出版) 2310 円。ポキャビル + 例文 + 練習問題の、なかなかユニークな学習書です。東大でも非常勤をしている / していた先生方も開発に携わっています。参考書というものは実際にそれを使って学習してみないと使い勝手はわからないものです。実用してみて感想をおきかせください。